

第5学年 国語科学習指導案		授業者	場所	5年教室
単元名	単元名 教材名	物語の全体像をとらえ、考えたことを伝え合おう たずねびと		本時 6 / 7
ねらい	主人公「綾」の心情の変化について、これまでの「綾」の会ったものや人、行動や心情を表す言葉等をもとに考えることができる。			
過程	本時の展開			
	学習内容	指導・援助	※評価規準	
つかむ (5)	<p>1 これまでの学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広島に着いてから、平和記念資料館や追悼平和祈念館を見たり原爆供養塔で被爆者のおばあさんに出会ったりすることで、「綾」の気持ちがどんどん変わっていった。 <p>2 本時の課題を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>「きれいな川」「ただの名前」は、「綾」にとってどんなものになったのだろうか。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・3分前学習で、対話グループごとに音読しておく。 ・掲示物を用いて、前時までの「綾」心情の変化を確認する。 		
考える (10)	<p>3 個人追究をし、考え対話をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あの日、原爆による悲惨な光景を見た川 ・戦争の恐ろしさを知っている川・今の平和な世の中を表す川 ・それぞれの夢や希望をもって生きていた人の名前 ・わたしたちと同じように泣いたり笑ったりしてくらしていたのに、原爆によって命を奪われた人の名前 ・一つ一つ大切な名前 ・忘れてはならない名前 	<ul style="list-style-type: none"> ・「この場面でも、綾の気持ちの変化が分かるところがあるよね。」と言葉を掛け、課題化する。 ・簡潔に「～な川」「～の名前」とまとめられるようにする。 ・5場面最初に出てくる「川」の様子や、1～4場面に出てくる「名前」について、その時点で「綾」がどう思っていたのかそれぞれの場面の学習で考え、比較できるよう掲示に残しておく。 ・何に出会って「川」「名前」がそのように変わったのか話せるようにする。 ・掲示物を指し示しながら、話すことができるようにする。 ・最初は、知識も実感もなかったが、たかさんのものや人との出会いにより、今は夢や希望をもって生きていたたかさんの人の命を奪った原爆や戦争の恐ろしさを実感しているという「綾」の変化をまとめる。 		
深める (20)	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-bottom: 10px;">  <p>最初は、ただのたかさんの名前としか思っていなかったのが、おばあさんの言葉を聞いて、一人一人が夢や希望をもって生きていた人の名前になったと思います。さっき〇さんが言った「泣いたり笑ったりして生活していた人の名前」という意見に、わたしたちと同じように生きていたという意味で似ていると思います</p> </div> <p>4 深めの発問をし、深め対話をする</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-bottom: 10px;">  <p>「わたしたちがわすれないでいたら…世界中のだけれも、二度と同じような目にあわないですむのかもしれない。」って、どういうこと？</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・原爆の恐ろしさをみんなが忘れないでいれば、二度と使われないということ。 ・わたしたちと同じように生きていたアヤちゃんや多くの人々の命や夢を奪った戦争の恐ろしさを忘れず受け継いでいくことが、戦争を起こさないことにつながるということ。 ・一人一人の人が大切にされる世界になれば、戦争は起こらないということ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・対話シートの活用 ・原爆供養塔で出会った被爆者のおばあさんの言葉等を考えるヒントとしてシートに書き入れておく。 ・友達の考えを青でシートに書き入れながら深め対話を行う。 		
まとめる (10)	<p>5 本時で学習した内容をまとめる</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p>最初は原爆のことを何も知らず、「ただの名前」で表されるように亡くなった人々を軽く見ていた「綾」が、広島でいろいろなものや人と出会ったことによって、アヤちゃんを始め、亡くなった人たちが確かに生きて生活していたことを実感し、その夢や命を奪った原爆・戦争の恐ろしさを忘れず、二度と起こらないようにしたいと考えるようになった。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・見つけ対話 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>※評価規準 主人公「綾」の心情の変化について、これまでの「綾」の会ったものや人、行動や心情を表す言葉等をもとに考えている。</p> </div>	

第5学年 「たずねびと」 単元構造図
 単元名 物語の全体像をとらえ、考えたことを伝え合おう

【単元の目標】

- ◎人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができる。
- ◎文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げることができる。
- 語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うことができる。
- 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる。

- 【思C(1)エ】
- 【思C(1)カ】
- 【知(1)オ】
- 【思C(1)オ】

【評価基準】

- 【知】語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。 <(1)オ>
- 【思】・「読むこと」において、人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。 <C(1)エ>
- ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。 <C(1)オ>
- ・「読むこと」において、文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。 <C(1)カ>
- 【態】粘り強く物語の全体像を具体的に想像し、学習の見通しをもって、物語に対する思いや考えを伝え合おうとしている。

【本単元で習得した資質・能力を活用する今後の学習】
 5年「やなせたかしーアンパンマンの勇氣」
 ・伝記を読み、生き方を考える。
 6年「帰り道」
 ・情景描写や視点などに着目して、人物像を捉える。
 6年「やまなし」
 ・作品全体から、その世界観を捉える。

【言語活動】 物語に対する思いや考えを伝え合う。
 【単元を貫く課題】 物語の全体像をとらえ、作者が最も伝えたいことを考えて話し合おう。

【第3次】

- ⑦ 「たずねびと」を通して作者が最も伝えたいことは何か考えて話し合おう。
 ・「作者が最も伝えたいことは何か」「その理由」「自分の中で変化した気持ちや考え」をまとめる。
 【考え対話】互いの共通点や相違点、対話する中で新しく気付いたことや考えたことをメモしながら対話する。

作者が最も伝えたいことは、自分たちと同じように夢や希望をもって生きていた人々の命や人生を残こくに奪ってしまった戦争の恐ろしさを忘れてはならないということだと思ふ。わけは、7場面の「ずっとわすれんでおつてね。」というおばあさんの言葉が特に大事だと考えたからだ。……

【第2次】

- ⑥ 「きれいな川」「ただの名前」は、「綾」にとってどんなもの変わったのだろうか。
 本時 【深め対話】「わたしたちがわすれないでいたら…世界中のだれも、二度と同じような目にあわないですむのかもしれない。」って、どういうこと？
 ・わたしたちと同じように生きていたアヤちゃんや多くの人の命や夢を奪った原爆・戦争の恐ろしさを忘れず受け継いでいくことが、戦争を起こさないことにつながるということ。

最初は原爆のことを何も知らず、「ただの名前」で表されるように亡くなった人々を軽く見ていた「綾」が、広島でいろいろなものや人と出会ったことによって、アヤちゃんを始め、亡くなった人たちが確かに生きて生活していたことを実感し、その夢や命を奪った原爆・戦争の恐ろしさを忘れず、二度と起こらないようにしたいと考えようになった。

- ⑤ 「綾」がおばあさんの言葉聞き、はずかしくなって下を向いてしまったのはなぜか。
 【深め対話】おばあさんは、どんな気持ちで「アヤちゃんのことを、ずっとわすれんでおつてね。」と言ったのか。
 ・誰にも迎えに来てもらえないかわいそうなアヤちゃんのことを、せめてだれかに覚えていてほしい。
 ・原爆の悲劇を受け継いで、伝えていってほしい。

「アヤ」にも夢や希望があったことや、自分が「アヤ」の分まで夢や希望をもって生きようなんて、考えてもみなかったもので、はずかしくなった。原爆で亡くなった人たちの悲劇を受け継いでほしいとおばあさんが考えていることが分かった。

- ④ なぜ「綾」はとぎれなく現れ続ける顔を見て、気が遠くなりそうになったのか。
 【深め対話】なぜ「綾」は、どうしても「目がはなせなかった」のか。
 ・どの子も、一人一人大切な存在だと感じたから見なければいけないと思った。

原爆の威力や亡くなった人の数の多さについては平和記念資料館で知ったが、追悼平和祈念館では、亡くなった人の一人一人の写真を見て、それぞれが本当に生きていたことを知って、戦争の恐ろしさや悲しさを実感した。

- ③ なぜ「綾」は「うちのめされるような気持ち」になったのか。
 【考え対話】
 ・原爆の威力のすごさや恐ろしさを初めて知っただけでなく、原爆のせいで亡くなった人の多さを実感したから。

広島に来る前は、原爆について詳しく知らず、「アヤ」のことを知りたいと軽く考えていただけだったが、平和記念資料館の展示物を見て原爆の威力や恐ろしさ、たくさんの人が亡くなったことを知り、ひどくショックを受けた。

- ② それぞれの場面で「綾」の前に現れたものや人物を確かめ、広島に行くまでの「綾」の心情をとらえよう。
 ・表を使って1～8場面で「綾」の前に現れたものや人物、「綾」の心情をおおまかにまとめる。
 【考え対話】4場面で、「行こうよ。」とせがんだ「綾」は、なぜ広島に行きたいと思ったのだろう。

それぞれの場面で、「綾」の前に不思議なポスターや平和記念資料館の展示物、原爆供養塔のおばあさんなどいろいろな物や人が現れる。広島に行く前は、同じ名前の「アヤ」に興味をわき、知りたいという軽い気持ちだったが、その後いろいろな出会いによって、「綾」は原爆の恐ろしさを知り、ずっとわすれないという気持ちになっていったことが分かった。

- 【第1次】 ① 物語を読んで、考えたことを話し合おう。 ・全文を読み、感想を書く。 ・感想を交流する。

【知り対話】 対話グループで、疑問に思うことやみんなが考えたいことを出し合い、今後の学習課題につなげる。

物語の全体像をとらえ、作者が最も伝えたいことを考えて話し合おう。

- ・それぞれの場面での「綾」の心情の変化について考えることで物語の全体像をとらえることや、その中で作者が最も伝えたいことは何か考えていくことを確認する。

【ICTの活用】 戦争の様子が分かる画像・動画等を見る。

【言語についての知識・理解・技能】 ・語句調べ ・平行読書

【児童の実態】 しばらく前から、机列を対話型に変え、様々な教科で「考え対話」や「求め対話」、「まとめ対話」などの対話を頻繁に行っているため、児童は対話に慣れてきている。しかし、対話の中で、考えを深めるところまでは、まだ十分に到達していない。本単元では、様々な物や人物との出会いを通して変わっていく主人公「綾」の心情の変化を追っていくのだが、その心情をより深く考えることができるよう「深め対話」を行う。その際、対話シートを活用して児童が自分の考えをもちやすくするとともに話し合いの視点をはっきりさせたい。また考えを深めるために必要な「質問すること」や「違う立場から意見を言うこと」等について、日頃の対話の中でも大切に、本単元の中でも使えるようにしたい。